

## 平成 30 年度 頼山陽史跡資料館との連携企画展示報告

- 期間：平成 30 年 7 月 21 日～9 月 2 日
- 会場：頼山陽史跡資料館
- テーマ：「“描かれた”宮島」



頼山陽史跡資料館（広島市中区）と共同して、平成 30 年 7 月 21 日（土）から 9 月 2 日（日）まで、企画展示「“描かれた”宮島」を開催し、757 名の方にご来場いただきました。

本センターからは江戸後期の絵師岡岷山「厳島図」や「厳島社頭図」（仙岳版）など 15 点の作品を提供しました。

宮島学センターが所蔵する「厳島図」は、厳島神社の社殿と大鳥居を中心に、弥山や御笠浜、有浦を写生的に画いています。一方、頼山陽史跡資料館が管理する「厳島図」には、宮島のシンボルである大鳥居が画かれていません。これは、六代目の大鳥居が落雷のため焼失してから再建されるまでの期間（1776－1801）に制作されたからであると推定されています。この企画展示では、同館の花本哲志主任学芸員のご配慮により、両作品を並べてご覧いただくことができました。

展示・撤収作業には学芸員資格の取得を目指す学生 16 名が参加しました。学生たちは、花本さんの指導のもと、大学の授業で身につけた知識を活かしながら、掛け軸や巻子の展示方法について実践的に学びました。



展示作業の様子

また、7 月 21 日、8 月 11 日、8 月 25 日には、花本さんと、宮島学センターの大知徳子助教が作品の見どころを紹介する展示解説をおこないました。一部の作品については、国際文化学科 4 年生の上田真凜さんと武政百合子さんも解説に加わりました。



展示解説会